



Walk with Children

めぐろ

大人 子供

せいび

221号  
2026年3月

サレジアン国際学園目黒星美小学校

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

(テサロニケの信徒への手紙 5章18節)

校長 シスター 小島 理恵

満開の白や桃色の梅の花に春の訪れを感じ、追いかけるように桃や桜の花が出番を待っている、そんな季節となりました。春の風を感じながら、この一年はどんな年だったのだろうと振り返っています。

子ども達は、年度初めの4月よりもぐんと背が伸び、大きく成長しました。1年生も2年生への準備がだんだんと整ってきました。楽しい事や嬉しい事はたくさんあったと思いますが、逆に悲しく、悔しい体験もあったかもしれません。しかし、すべての出来事は、それが神様の恵みであったことがいつの日か分かる時が来ます。

上記の聖書の言葉は、使徒パウロが、迫害の中にあつたテサロニケの信徒を励ますために書いた手紙です。パウロ自身も苦しみの中にあつた時期に書いています。そこには、神様への強い信頼がありました。必ず良き方への導いてくださる！と。ですので、私たちも、パウロの言葉に励まされながら、「いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝」して、この一年を締めくくりたいと思います。

保護者の皆様のご理解とご協力、そして示して下さった信頼に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

## 卒業ミサ

多くの恵みに感謝して

6年担任

今年度もあとわずかとなりました。子ども達は、日々の学習や行事、友達との関わりの中で、多くのことを学び、そして互いを思いやる心を育んできました。

先月6年生とスキースクールへ行ってきました。スキーの技術は人それぞれですが、インストラクターの話をよく聞き、真摯に練習する姿に星美の子らしさを感じました。滑りながら、友達と励まし合い、助け合う姿も多く見られました。

学校生活や登下校においても、上級生が下級生に優しく声をかけ、手を差し伸べる出来事を多く耳にします。この温かいつながりがさらに広がっていくことを願っています。

これまでに出会ったすべての人を通していただいた恵みを感謝し、また、より良い学校をみざして活躍してきた六年生一人ひとりに神様の豊かな恵みを祈り、卒業ミサにあずかりたいと思います。

## ドン・ボスコのお祝い

お祝いに向けて、ドン・ボスコが大切にしたい「喜び・ファッチョイオ・心を込めて・素直な心で・感謝」を徳の花で意識して心の準備をしました。当日は、会場に来てくれたドン・ボスコに子ども達が学校の様子を伝え、先生方がリコーダー演奏をしました。5年生は、宗教劇「走れメロス」を通して、友情、信じることの大切さを伝えました。創立者を讃える会を盛り上げ、よい集いとなりました。



## 5年宗教劇 「走れメロス」

### メロスの劇を通して学んだこと

5年

ぼくは、メロスの劇を通してたくさんのことを学ぶことができました。

練習では大変なこともありましたが、お客さんに考えることをしっかり伝えるためだと考えたらがんばれました。そして、本番では友情、あきらめないで信じる心を伝えることができたと思います。

一番心に残ったことは、みんながびっくりするほど一致していたことです。なぜなら一人ひとりが考え、集中して行動できたからです。それに、真剣に見ていてくれる人がいるから成立したと思います。劇が上手くいくために頑張った先生方にも感謝しています。

ぼく達は協力して劇を完成させたことで、一致することの大切さを知ることができました。これから、困ったり誘惑に負けそうになったりすることもあると思うので、そういう時に一致の大切さを思い出したいです。そして、自分を見つめ直すきっかけにし、正直に信じて過ごすことを大事にして成長していきたいです。

この劇を通して一人でも多くの方がメッセージを読み取って、感じてくれたらうれしいです。強い思いを持って劇をすることができたので感動し、やり切ったので、とても良い思い出になりました。



### みんなで協力すること

5年

ドン・ボスコのお祝いで、ぼくたちは「走れメロス」の劇を演じました。この劇のための練習で苦戦したことが2つあります。

1つ目は声の大きさです。前日の練習でもギリギリ届くかどうかと言われ、本番で声が伝わらなかつたらどうしようと不安になりました。しかし、本番はきちんと声を出すことができました。

2つ目はダンスです。練習ではなかなかうまくいかず、前日や当日の朝になっても間違えていました。しかし、本番では、「間違えても自信をもっておどればいいよ。」という先生からの言葉を思い出し、自信をもっておどることができました。

ぼくはこの劇を通して、みんなで協力して何かをすることの面白さとやりとげた時の達成感を知りました。これからもみんなで協力して色々なことをしていきたいです。

## 劇を通して感じた成長

5年

1月30日に「走れメロス」の劇を演じました。私の役である町人は、メロスにこの町の状態を伝える役目だと思いました。また、深刻さを伝えることが大切だと分かりました。

私は人の前で発言するのが苦手でした。3年生の聖劇でもあまり大きな声は出ませんでした。そこから約1年半たった今、前の自分より本当に成長したなと思いました。練習しているうちに、どんどんはずかしいという気持ちがなくなっていきました。それも、一緒にすごしてきた先生や友達のおかげだと思います。今では5Cのみんなが信じ合える仲間になったと思います。

そして本番、舞台の上に立つ自分がほこらしく思いました。この劇は私に、希望と本物の信じ合える友情をくれました。



## みんなで成功したメロス

5年

私は「走れメロス」を演じ、その中でたくさんの感謝を感じました。

まずは見守ってくださった先生方です。照明の調節や、川などの場面の再現や準備、衣装を縫ってくださるなど、たくさんのことをしてくださいました。そのおかげで舞台の上に立つと、もっともっとがんばろうという気持ちになりました。

そして何より一緒に演じた友達です。私があまり声が出なくて不安に思っているときに、遠くまで届く声の出し方を教えてくださいました。それから友達同士でアドバイスし合い、どのようにしたらもっと良くなるか考えました。おかげで自信をもって演じることができました。

「走れメロス」の劇がみんなで笑顔で終わることができてとても良かったです。



## 第54回 カトリック小学校連合音楽会

4年生の子ども達は、カトリック音楽会に参加しました。文京シビックホール大きさに感動し、緊張感を味わうことも楽しんでいました。学校の代表として生き生きと歌い、演奏する姿に、たくさんの方々から大きな拍手をいただき、達成感も味わえた時となりました。



### カトリック音楽会を終えて

カトリック音楽会には、カトリックの小学校の子ども達が参加しています。大きな舞台上、全員で協力して歌やえんそうを行ったり、他校の発表をきいたりして沢山の人のつながることができたのがとても心に残っています。

4年

本番に向けて、学校や家で何度も練習を積み重ねました。1曲目の「遠い日の歌」は、歌詞やクラス別の三部合唱、2曲目の「スペインのカスタネット」は、カスタネットで行うリズム表現がとてもむずかしかったです。でも、本番は、練習の成果を発揮して、今までで一番良くできていたと思います。

これからもカトリック音楽会を通して学んだ友達との協力の大切さを忘れずにして学校生活をすごしていきたいです。

